Introduction
はじめに

Group1
携帯メールにおける
絵文字使用に関するアンケート

Group2
流行語と顔文字における
認知度と使用頻度の差

Group3
外来語と和製英語の
認識について

Group4
敬語の使用に関する調査

Group5
日本語の誤用について

Group6
電子メールに対する意識調査

Group5 日本語の誤用について

<尾渕班>
尾渕　広明
髙橋　直希

PDF 尾渕班 発表データ（PDF）

PDF 使用した調査票（PDF）

はじめに

日本語語句のうち、誤用されやすいと考えられる言葉についてアンケート調査を実施し、言葉の意味と使い方についてそれぞれ5語、計10語を選出。辞書に載っている意味、および使い方を正解、それ以外のものを不正解としてスコアをつけた。

調査対象は日本語学基礎演習１を履修している文理学部生１９名で、有効回答数は１７である。

仮説

仮説①：未検討

仮説②：文芸（小説、随筆、評論等）関連の書籍を読む機会が多いほど誤用は少ない。（尾渕）

仮説③：インターネットに書き込みをする頻度が多い人ほど、誤用は多い。(髙橋)

全体のまとめ

・３つの仮説の検証により、新聞、読書、インターネットへの書き込みの量が、それぞれ日本語の誤用の多さに直接関係しているとは考えにくい。
・フェイス項目の冊数や回数の質問の仕方が曖昧で、回答者によって解釈が異なったことが考えられるので、もっと詳しくしたらより細かい結果が出せたかもしれない。
・他に誤用の要因としては、文字情報ではなく、会話などの耳づてに伝わった可能性が考えられる。

参考文献

▪吉沢典男　『どこかおかしいあなたの日本語』　幻冬舎　２００３年３月

ページ TOP へ

Copyright（C）2011 Department of Japanese Language and Literature. All right reserved.